

次世代を担い、農業の未来を拓いていく若手農業者。彼らとビジョンを共有し、夢を実現させようと奮闘するTAC。二人三脚、模索を続けながら生活者に思いを伝える姿をレポートする。



千葉県 JA長生

滋賀県 JAこうか

岩手県 JA新いわて

栃木県 JAしおのや

長崎県 JA島原雲仙



▼若手農業者 中島基史(左)
レタス専門部長 山下達也(左から2人目)
JA新いわて TAC 釜石文雄(右から2人目)
中嶋勇太(右) ④
▼畑をキャンバスにしたレタスアート(平成26年度)⑤
▼レタスの収穫風景⑥

「レタスアート」で次世代につなぐ

岩手県一戸町奥中山地区。「ここで生きていく」。中島基史(29)は決意している。昭和20年代に開拓されたこの地で、祖父の代からレタスを栽培してきた。試行錯誤と苦難の末、この地で根を下ろすためのすべだった。「培ったものを受け継ぎながらさらに発展をしていきたい」と力を込める。

きっかけは、ある思いからだ。東日本大震災で県内の沿岸部は壊滅的な打撃を受けた。被害の少なかった自分たちに、何かできないか——。地域の仲間と自分たちにしかできないことに、思いをめぐらせた。被災者にレタスを贈るだけでなく、心に残るメッセージを畑に託そうと、行きついたのは「レタスアート」だった。30㎡の畑をキャンバスに見立て、赤紫と緑の非結球レタスで「元気」の文字と笑顔のマークを描いた。

今年度で3年目の取り組みになった。パソコンで設計図を作成することからはじまり、作業工程、育苗管理、マルチングの機械操作や施肥設計まで中島ら若手農業者が一貫して携わった。役割分担が進んだ家業とは異なり、若手農業者にとって全ての作業を自らの手で進められる貴重な研修の場とも位置付けられた。地元の中学生を招き、苗の植え付けから収穫までを行う農業体験学習の場としても提供した。慣れない手つきで苗を植える生徒を指導しながら、中心メンバーの一人、中嶋勇太(29)は「伝えていくことの難しさ。

そして、これまで知らず知らずのうちに周囲に支えられてきたことに気付かされた」と語る。有志の手で始まった取り組みは、次世代につなぐという新しい意味が加わっていた。若手農業者にもできることがある。中嶋の心に強く残った。

地域に人を呼び込む仕掛けづくり

取り組みの成功には、TACの釜石文雄(61)の支援もあった。全農いわての「若手担い手育成対策要領」などの情報提供の他、家業の合間にレタスアートに関われたことは、「釜石のおかげ」と打ち明ける若者もいる。一年で最も忙しい期間に、わずかの時間でも家族の働き手は取られた

くないもの。持ち前の明るさと気配りで父親の不満顔をやわらげる姿は「世話焼きの親戚のおじさん」と親しみを込めてそう例えられる。いつでも担い手の要望に答える“よろず屋”を自認する釜石は、誰よりも地域や農業に精通している。

地域に継続的に人が訪れる仕掛けづくりを続けたいという思いは中島と中嶋に共通している。二人はレタス畑に大型バスが止まり、テレビや新聞で取り組みを知った多くの観光客が記念写真を撮る光景を見ていた。「やり遂げた自分達には人を呼び込む力がある」。今は一か所のだが、奥中山の各所にレタスアートを広げたい。奥中山のレタスを知ってもらい、もっと人が訪れるように。(敬称略)



TAC(タック)とは、
『地域農業の担い手に向くJA担当者』の愛称です。

TACの役割

- ①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。
- ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
- ③地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TACの由来

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって
地域農業をコーディネートします。

営農販売企画部 TAC推進課
TEL:03-6271-8276 www.zennoh.or.jp

